生命誌の広場

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事
2019年10月02日
RE:アゲハの気持ち
2019年09月26日
アゲハの気持ち
2019年09月13日
原爆について
2019年09月05日
BRHメールマガジン vol.363 新着情報
2019年08月28日
この夏一番元気だったものは？

最新のご意見
2019年09月27日
RE:アゲハの気持ち
2019年09月25日
アゲハの気持ち
2019年09月09日
原爆について
2019年09月05日
BRHメールマガジン vol.363 新着情報
2019年08月23日
この夏一番元気だったものは？

過去の書き込み
2019年 10月 GO

みなさんからのご意見

中村桂子の「ちょっと一言」

国家の隠し事は犯罪行為

投稿日：2014.05.29 **ニックネーム：**のり

先に、田中克彦さんの本のことでご紹介がありました「表現」について、これが近代に翻訳の要から作られた語であること、納得がいきました。この話の正反対を行っているのが国家、及びその関連機関です。現在、朝日新聞に掲載が続いている元福島原発所長、吉田氏の調書の記事によると、原子力安全・保安院が原子炉の爆発事故にあたって、報道統制を命じ、周辺住民の命に関わる重大事を隠したという事実が報じられています。この機関はその名前とは反対に、原発の最も危険な時期に、その被害を直接受ける住民に事実を隠し、危険を知らせなかったわけです。朝日新聞はこの事実を正しくも「保安院の暴挙」と書きしるしました。これが、事故から３年経った現在、一部報道機関の努力で日の目を見ることになりつつあるのは、「表現」のあるべき姿として、模範とすべきであると思います。しかし、隠した側の責任は放置して良いものか、怒りを抑えることができません。

お返事

投稿日：2014.06.03 **名前：**中村桂子館長

おっしゃる通りですね。自分の中から出るのでなく周囲を見て、それに合わせていくことばかりを言葉にしているからですね。９９％ダメでも１％よいところがあったらそこを見るという考え方でやってきましたが、最近の動きを見ているとそれは通用しなくなったようで考えこみます。原発も重要ですが、今緊急のこととして私のまわりでは国立競技場を壊すのを止めるために多くの方が動いています。私もお手伝いできることはしたいと思いながら心ある建築家の皆さんの応援をしています。この件是非関心をお持ち下さい。
７月には壊すと言っているので
大急ぎです。

中村桂子の「ちょっと一言」

自由

投稿日：2014.05.29 **名前：**岡野桂子

日常の中で当たり前として流れてしまうもの、先生の一言で流してはいけない大切なものに気づかされます。
自由。とらえどころなく、ただ自由というとそれは無に等しい？物理的な制約、無意識的なおきてや慣わし、なんらかの意図を持った取り決めや法、そういうワクがないと発散して'かたち'は生まれてこないのかもしれない。ワクに衝突、あるいはワクが狭まることによる閉塞感ではじめて自由に気づく。生きものの姿やふるまいを生命の表現、そして表現することを生命の主張と思いますと、生命の主張がワクを超えしなやかに変容していけるのが自由の感覚。ワクを超える前例のない空間に進むとき（勇気がいります）、個性とともに自立の感覚が生まれてくるように思うのです。そしてそこには多種多様な生命のあらわれ。地球にはなんと多くの生命の表現で満ちていることでしょう。人間の力任せの乱暴ともいえる振る舞い、生命の主張とそのあらわれを踏み潰しその輝き奪う行為。思いのままにではない自由というのを考え直してみたいと思いました。

新着情報

10月19日生命誌オープンラボ(19.10.01)
10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)
昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)
パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)
あくあぴあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

その他

じかに自然に接してびっくりしたこと

投稿日：2014.05.28 **ニックネーム：**hon no mushi

先の、愛という音読み表現はかなり極端なものに思われ…より身近な表現としては、情理の「情」の方がなんとなくしっくりしそうです…理屈で押し通せない何ものか…
…今回は蛇足ですが…

…偶然見た茶色で中くらいの、おなかの丸い蜘蛛の後ろ脚が、両脚で糸にかかっているのがまるでカエルの伸びた脚に見えたり（本当にそっくりでした）……三つ葉が群生している区域に隔離されたキアゲハの幼虫が、（パセリが近くに生えているのにもかかわらず）旺盛な食欲でミツバを食べ進め、薄緑の地に黒の斑紋、その中に朱の点々がある、勾玉のような蛹となって家の外壁にくっついていたのを見ると、生き物にじかに付き合うことの大切さが…

昨日からくっついていたその勾玉が、普通のさなぎの姿と違って幼虫そのままだったので今確認しに行ったら、なんと、図鑑にある普通の蛹の姿になっていました…一時間前までは丸一日以上も幼虫の姿でぶら下がっていたのに…ですよ…いつ変わったんだろう…？？？

その他

愛はお金で買えるのか、どうか

投稿日：2014.05.27 **ニックネーム：**hon no mushi

永遠に答えの出ない問いかけを申し…御免なさい。

昨日書き込んだ後、胸に引っ掛ったことがありまして…

中国は米国とは戦争はしません…小競り合いはするでしょうが、中国は米ドルで外貨をたくさん持っているので、経済的には心臓を握られているといったところでしょうか。それに、（国連の常任理事国という立場を差し引いても）まともに対立すると必ずロシアが脇から出てきて、漁夫の利で美味しい所を持って行ってしまう（今緊迫している、シリア（ロシアの軍港あり）、クリミア（保養地）、東部ウクライナ（大量のガスが眠る）など例は幾らでも…）。

ふと、そこで思い返してみたのですが、ベルリンのザクセンハウゼン強制収容所跡地をフラフラと見に行ったことがあり…二千年頃ですが、何にもないただの空き地になっていて、記念館その他がちょこっとあり、中に入ってみて印象的だった、背中がくっついた双子のような女の子の写真…
…なんだかすごく腹が立ってきました…
『死の泉』にもありましたが、メンゲレの外科手術でしょう。ユダヤ人の双子をかき集め、一つの心臓で二人をつないだらどこまで持つか試したという…
水木しげるさんが『劇画　ヒットラー』というのを描いていて、かなり的を得たヒトラーの像だと感じ（…ユダヤ人を大嫌いになった訳が特に…愛していた姪のゲリがユダヤ人青年と懇意になって…結局は彼女は追い詰められて自殺してしまった…）。しかし、水木さんが描くと、ヒムラーもゲッベルスもゲーリングも、みんな妖怪と化していってしまうのですね…
…そのユーモアに助けられ、ちょっと楽になりました…

核兵器を持つと…自分が使えば相手も使ってくる、ゆえに使えない。
一つの心臓を共有した二人のどちらか一人が、ふかしたての焼き芋を素手で持たざるを得ない状況…が、何故か浮かんでしまいましたが…
一人が我慢すると二人とも苦しくなる…

『ヘルタースケルター』は借金をして愛を勝ち取る？話ですが、今の日本はそれにすごく似ているのかも…
また、フナの性で、２倍体、３倍体、４倍体が絡んでくるのが…もともと円の一部であった線分と△、□に喩えてみるとおもしろいかも…と感じました。

その他

フナがコイして、アイはイナめず…？？？

投稿日：2014.05.26 **ニックネーム：**hon no mushi

自分でもため息が…際限のない投稿ですみません。

今朝の朝日新聞の科学面で、ベラ、アイナメ、フナの性の在り方、遺伝子の不思議についての特集があって刺激的だったのですが、それとは別に…

副題は「国境を取っ払ってみると…」で、
戦争についてとりとめもない想いが浮かんできました。本当に断片的で、整合性も真実的な確かさも保証できないですが…

日本が近代化、特に軍隊組織と装備の近代化にすんなりと成功したのは、江戸時代の士農工商の「士」の支配が行き渡っていたからで（その時欧米から渡航してきた人が「庶民は気さくだけれども、武士は横柄で取っ付きにくい…」という感想をこぼしたと耳にしたことがありますが）、そのことが太平洋戦争では裏目に出て、戦争反対派を押し切り、社会での個人同士のつながりを分断し、相互不信に陥れる監視システムとして「非常にうまく」機能してしまった…
軍隊はとてつもなく雁字がらめに決められた階級組織であって、一点から上方に向かって環境に応じて広がり、個性と多様性が増す生命誌マンダラを見事にひっくり返したような、上意下達の円錐…時代も関係なくどこの国も同じ…現在の自衛隊が米軍と連絡を取り合って同調しようとする動きは、基地は日本の中でも、体制は米軍の大きな円錐の中の小さな円錐…
軍人には法治、特に人権が（良い意味でも悪い意味でも）適用されにくく、一度大規模な戦闘状態になると、敵方の兵士に対する人権はうわべだけでも守られることはない…
恐ろしいのは…現在の中国その他のような…勿論その国籍を持つ人全てが悪いのではないのに…法の縛りがあって無きが如く、軍人には社会的特権を行使できるという、社会的ジェンダーの「オス」の役割が与えられ、その他諸々の者達はその予備軍、いつでもオスに変えられる様な、有り余る程の「メス達」として支配層によって兵器化され得る…日本もハマった、ヒトが陥りやすい男系社会特有の罠…

嗚呼、愛があるのかないのか…

その他

矛盾

投稿日：2014.05.26 **名前：**岡野桂子

　あちらを立てればこちらが立たず。世の中の動きに立ち尽くしてしまい、投稿もできないでいました。先生の言葉に励まされ、少しでも前に歩みだすために書いてみます。
　矛盾。うまくまわっている時には表立って現れてこないけれど、ひずみが大きくなって、先送りと言いますか、やりくり修復が追いつかなくなると立ち現れてくる。そんな時、生きものは自らを改変する、或いは次元を上げて一つ上の階層で矛盾を包み込んで解消する。？。矛盾は生きるエネルギーでもあり、保持しつつ解消していくことが生きていくと言うことかもしれません。私、私たち一人称の階層を上げていって、私たち地球の生きもの、そしてその中のヒト私に返ってくる往復運動の内に新しい道と希望を見つける。難しいですけれど。
　’保持しているが、行使できない。’できないをしないとすればもっと矛盾？尖閣諸島の所有権。アホウドリにその権利の行使をゆだねる。無理とは思えど夢見ます。

お返事

投稿日：2014.05.28 **名前：**中村桂子館長

歴史と基本を無視した乱暴が権威の下で進められるのは本当に嫌になりますね。中学校で習う憲法の基本を知らないとしか思えない集団的自衛権へ向けての動き、東京という街の歴史とそこに暮らす人々の生活を無視した国立競技場の建設へ向けての動き。共にそれが現実にならないことを願って「向けての動き」と書きましたが、権力はそれをやってしまうのでしょうか。なぜこんなことになってしまったのかと思いますが、希望は捨ててはいけないでしょう。

中村桂子の「ちょっと一言」

当然出てくる「解」

投稿日：2014.05.22 **ニックネーム：**hon no mushi

ご免なさい、先に挙げた本を更に少しづつ進めてみて（えぐいのですが）、思い出したことがあります。

表現…手塚治虫先生の表現についてです。前回の私の話と似たような物語も手塚先生は『火の鳥』にて描かれておられますが、その表現で思いつくのは、「かわいい、綺麗」と「きたない、暗い」がいつも同居しているような感じを読み手に与えるということ…
でも、それは表現型としては当然生まれてくるものなのではないか…
…生命誌曼陀羅に重ね合わせた、素数均等分割円というイメージのなかの、結節点となる飛び石は、一つの光を他の石に散らす、と申しましたが、それは月の満ち欠けのような、満月から始まって新月、そしてまた満月まで至る過程のそれぞれの絵姿に近いのかも…現在存在しているゲノムに位置的に対応しているけれども、今はこの世界にいるかどうかわからない者たちを暗に照らし出す…手塚先生はその、今は見えていない者たちを、キメラというほど強引ではないモザイク遺伝的な表現で、「まるく」あらわしたのではないか…今度の漫画は、それをとがらせたもの（尖らせた分薄っぺらくなって中身が無くなってしまっているようですが）…
でも、それもジーノゥ…という言葉で、（比喩的にですが）言い表わされる範疇ではないかと思いました。

…なんだかつまらない投稿で煩わしてしまい…爪はじきで恥知らずだとは自分なりに強く感じておりますが…

お返事

投稿日：2014.05.23 **名前：**中村桂子館長

投稿して下さることありがたく思います。本当はさまざまな方にさまざまな意見を書いていただきたいと思っており、他の方の投稿が少ないのがとても残念で寂しく思っています。この場を借りて、どんなことでも結構です、思うこと、感じたこと、出会ったことなど書いて下さいと皆さまにお願いをしたく思います

その他

一言多過ぎてしまうムシの悲哀

投稿日：2014.05.20 **ニックネーム：**hon no mushi

万物の霊長とは…際限なく細かく切り刻まれる時間の中で、全てを支配し全てのものの上に立ちたいという、のぼせあがった頭の持ち主のこと？…報われないホンの虫通信です。

『ヘルタースケルター』という変わった漫画をめくってみて、キツイがありきたりな表現のものだったので閉じてしまったのですが、そのおかげで、昨日から白昼夢のように頭の中にぼんやりと浮かび、たゆたっていたものが、具現化されてきました…

生命誌マンダラについて色々と投稿申しましたが…

白いもやった糠のようなものが流れていく、その境界がはっきりとこちらからわかる状況で、糠に釘という言葉風に、最初に手をその流れに突っ込んでみて、その川の向こう側に入った手を振ると、水掻きのような膜ができているように見えたり、また、鳥の翼のようにかわって見えたりするのです。これはその川の表面の屈折率の違いで、ほぼ同じ階層の、他の種や個体の同じ位相部分（ホメオ的な対応部）が見えてしまっているのかな…と思ったりしているうちに、今度はその川の流れが天の川のように頭の上の方に移ってきたので、ついでの機会で頭を突っ込んでみました。その結果、自分ではなんともなかったのですが…
下の、この川の流れに浸ってない体のある世界の方から声絵が聞こえて…

…トリだ、頭が鳥だと叫んでいるようなのです…

自分では…その時はもう…トリってなんだろう…とどうでもよくなってしまって…

という夢…

一言付け加えますと、夢の世界は重要な要素を含んでいると思います。

人間は、技術を磨くことによって量子力学的に格段の優位性をその身内にもたらしてきた…鉄の精錬技術、火薬製造保管技術、レンズ加工技術、電子を操る技術、技術を伝え広める技術、技術を磨く技術…組み合わされることはあっても決して統合されることはなく、どんどん細分化され、科学はそれにへばりついている陰（影）のようなもの…
でも、その影は一つになり得る、たった一時でもそれら全てにつながって共通の何かを見せうるもの…
…夢も似たようなものでは…

その他

コーヒータイム、息抜きによろしいかと…

投稿日：2014.05.12 **ニックネーム：**hon no mushi

ご免なさい、いつもいつも出しゃばりでご迷惑をおかけしていますが（こんなmushiにたかられるとウンザリすること請け合いです)、今回はさらに羽目を外して愉快で楽しい本をご紹介いたします。

…ジャレド・ダイアモンドさんの本を読んでいて…どう捉えたらいいのかそのスケールの大きさについてゆけず（脳みそにものすごく大きい揺さぶりをかけられているようで）ちょっと行き詰っていたところ…何の気なしに近くに寝そべっていた（としか思えないふうに怠慢そうにしている）本を開いてみました。
…『古世界の住人』…
というハードカバーの本ですが、開いて思わず（運悪くたまたまおかしなページだったり…また、他の生物のコメントもくせ者の癖が出ていて）笑ってしまいました…なかなかユーモアが込められていて…既にご存じでしたら私が申すことは何もないです。

…いや、しかし息抜きにちょうどよろしいかと…息と一緒に魂まで抜かれそうに（笑い過ぎで横隔膜がけいれんするぐらい）かえって怖かったですけど…そういえば雌雄モザイクというのもあったのですね…

中村桂子の「ちょっと一言」

もともとはみんな同じだった

投稿日：2014.05.11 **ニックネーム：**hon no mushi

さらなる付言お許し下さい。

〇から…たくさんの多様な△やら□やらが時間をかけて育っていって…それらが実は〇から生まれ落ちたものだということを、すっかり忘れてしまっている…のではないかと感じました。
…変化を経験し、色々な外形を成した者達…□に△を込めた画からは、囚（とらわれる）という字が一瞬思い浮かびましたが、そこに捕われている時は、もとの形が皆〇だったということに誰も思い及ばない…

そして、書にしては稀なその図からは…何かこちらが試されているような、自分の中の何かを呼び出されているような…そのための鍵穴の如く、しっくりしたものを探したくなるような…

そして、またおかしな夢をみまして…
状況としては、高速道路を走っているのですが、自分の乗っている車は一人乗りのカプセルのような、駆動部の上に丸い透明な半円球がカバーとして乗っかっていて、その中で運転している…
それがいきなり、故障して減速し、動かなくなってしまったのです。
車から出て、どこがおかしくなったか調べていて…ハッと気づくと、周りの、どんどん自分を追い越していく車が、全くこちらには無関心で、運転手は皆前の方しか向いておらず…あまつさえ後ろから迫ってくる車が車線変更もせずにそのまま真っ直ぐ来るのです。
…でもその車はこちらをすり抜けていってしまう…更に後続の車もみな同じ…

人生のキャリアという大道を進む機能を失ってしまうと、その途端に人には見向きもされなくなってしまうということ？…いや、別の流れに入ったような…

他の人が見る夢はどうかわかりませんが、私の見る夢は大抵が、いきなりパッと、大変リアルな形で、イメージが立ち現われてくるのです。そして時間を追う

ごと、モザイクが剥がれ落ちてゆくように、構成してつながっている各パーツが消えていって…（そういえばモザイク遺伝というのもあるのですね）…それはまるで別の世界に入り込んだような感じ…今現実に生活する世界とは別の流れに突如接続するような…今まで川の表面をさまよっていたのが、いきなり水底の世界に引きずり込まれるような…
異質の世界に…

その他

年季が入るまで…ゆっくりした生活史をたどる

投稿日：2014.05.09 **ニックネーム：**hon no mushi

まだるっこいようですが、補筆します…

鳥の生態調査が本来の専門だというフィンレイソンさんの本を解説まで読み終わってホッとしたのか、〇△□についてまた変わったイメージが湧いてきたので（…勝手に生成するというか…）お伝え致します。

〇はやはり他の二つに比べ大きいスケールなのですが、その〇の内側を目がけて流星や彗星のように、尾を引いて破片を撒き散らしながら進むものがあって…その散り散りになっていく破片が、たくさんの小さな△や□のように見えるのです。…それらがほうき星の中心部付近からどんどんどんどん湧いてくるというか…万華鏡に近いようでちょっと違うような…

…これは弁解ですが、ア’リールというのは対立遺伝子のことで生物の教科書で最初の方、メンデルの遺伝の所にあったのをうっかり忘れてました…また、〈ゲノム拡大体〉と、流れにまかせて勝手に使ってしまった名は、ィクステンション（エンラージメント）ジーノムフィールドと、英語で云う時はそうなるのかも…

最後に、先の本から少し引用を…

…新しい技術のおかげで繁栄が約束されることがわかると、世界をどこまでも発展されられるという幻想が生まれた。発展という人類の夢が、次第に悪夢と化していくのはこの時からだ…私たちは進化に選ばれたスーパーヒーローというよりは、隙あらばどんな場所にでも侵入する病原菌のようにふるまってきた…人類の物語で重要だったのは、未来を手なずけることだった。だが…これまでの暮らしを見れば、豊かな環境を独占していた集団に常に周縁部に追いやられていたのではなかったか…予測できない筋書きをたどり、最終的に現在の私たちにつながった一歩一歩は、周縁部に暮らす多くのイノベーターたちによって刻まれ…大半は途中で姿を消すことになるが、ひとつの集団は生き残って物語を伝えることができた…

中村桂子の「ちょっと一言」

水と空気、石と骨、骨と土、木と草、鉄そして火…

投稿日：2014.05.08 **ニックネーム：**hon no mushi

投稿が嵩んでしまい、申し訳ありません。
（今度は鼻でフフンと笑われるかもしれません）

また変な夢をみて…今度は音だけですが…乾いた音が鳴っているのです。マラカスのような、木魚を叩いているような…そしてそれがとても心地よいのです…
寝覚めの時に…
今は…「おまえは誰も助けてやれない…」というのが幽かに聞こえてきたりして…

そしてもう一つ浮かんできたイメージ…まるい枠がふわふわと浮いているように置かれていて…フラフープみたいに…そこから水がジャバッ、ジャバッと外の方にあふれてこぼれていくのです。内側に水の形跡は見えないのに、どこから湧き出してくるのだろう、といった不思議な感じ…
水と空気の境界かな？その枠は…と思ったりもするのですが…

前掲の本に、欧州西辺の有名な洞窟壁画の話で、石灰岩窟だったので絵の保存状態が良い、とあったのですが（天然のフレスコ画という所でしょうか）、あれも空気と水の境界面に二酸化炭素を含んだCa水の被膜ができて顔料を薄くうすく覆っていくから…

石…石灰石…骨…

土と空気の間を水が取り持つと…植物が生え…
巨大な石…岩山…山と平地部の境には湧水溢れる地域ができる…

今朝の新聞に、中国が南方でかなりの海域を自国の領海とみなし、他国を尻目に勝手に開発を進めている、という記事がありましたけど、その枠の取り方は贔屓目に見てもとても公平とは言えない…集団的自衛権の解釈変更で米国などとより親密な共同歩調をとると、どうもその辺りでひと悶着ありそうで、ここまで衝突が現実化してきてしまうのは遣る瀬ないです。比較的□の世界からトンガリの△が増えていくような感じで（人類の進歩は余剰生産と備蓄、技術の管理から…とありましたが、それを持った集団同士が対立し一度火がついてしまうと…）

…余計なことばかり書き込んですみません…

中村桂子の「ちょっと一言」

取り立てて目新しいことではないけれど

投稿日：2014.05.07 **ニックネーム：**hon no mushi

先に書いたハルジオンは、茎が中空で（空芯菜というのもあるそうですが）…△がイノベーター―でないかと申してから更に読み進んでいるうちに、新石器時代、石器の加工技術の進歩で、フリント石をどんどん軽く小さくして…（比喩的に）カタい□にくさびのように打ち込む…という光景を想像してしまいました。

そして、また変な夢を見まして…
髪がモジャモジャの小さな女の子が、落ち着いた様子で手に卵のようなものを持って、上下左右にゆっくりとそれを回し眺め見下ろしながら立っている…という…
それで、〇はやはり卵かな、と思いましたが、輪ゴムのようにのびのびとした空気なのかもしれない…とも感じました。

（今回の投稿はフフっと笑われてしまいそうな他愛無い話で恐縮ですけれども）

私の本棚には珍しく、一度見てからずっと置いてあるVHS、『パーフェクトサークル』という映画があります。確か、詩人が紛争中に生き延びる（そういえば前掲書でsubsistenceという言葉がありましたが）、…完璧にまるい円を描くことができれば…心は安定し落ち着いている…という祈りのような気持ちで戦火をくぐり抜けてゆく、というような話だったような…。参考にして頂けると幸いです。

中村桂子の「ちょっと一言」

毎度毎度のお騒がせしてすみません

投稿日：2014.05.04 **ニックネーム：**hon no mushi

はしたない投稿お許し下さい

今回の中村先生のお話は、私にはスケールが大きすぎて、ただ見ているだけ…だと思っていたのですが、ふと今読んでいる本の箇所との関連から頭に浮かんだことがあります

現生人類とネアンデルタール人についての百年にわたる考察なのですが、三万年ぐらい前のユーラシア（ユーレイジャ？）の気候、環境、動植物相…が採り上げられています。
その時の気候は、氷期末期の大変厳しい寒さで、森林北限が南下、ピレネーから黒海沿岸、中央アジア、アルタイ、シベリア南東部までが樹木の北限となり、その北側に沿って幅広く、ツンドラステップという、灌木がちらほら見られる程度の草原が広がっていた（百年ぐらい暖かい時期もあって、木が増えることもあった）らしいです。
本を通して、コンサバティブ（保守派）とイノベーター（環境適応探求者）という見方が出てくるのですが、前者は自分に合う環境では強いのですが、後者は環境や気候が目まぐるしく入れ替わる度に何とかやりくりする…そこで私には、前者が□、後者が△に思えてきたのです…何となくですが。
（すぐに頭に浮かんだ卑近な例として、体操の平均台があります。乗るための上

の面は平らで、それはずっと変わらないでしょう。しかし、台の断面が△になったら…難度がMとかSになってしまうくらいの神技が必要に…その時、この△は考えるのです。これではだれも踏んでくれないので、てっぺんにマットを巻きつけて、（断面が）昔の日本の枕のよう（な前方後円墳型）にしたらどうだろう…とか…
それはそれとして、□と△は相互に乗り換わり、色々あるわけで…それが「色」

〇は中が空っぽの空洞…春ジオンのように。三万年前のサハラ砂漠のような人の住めない不毛の中心、そこからある程度の距離をとって森林帯、ステップの帯、それは円周の輪の辺り。その外はオオカミのいるツンドラと白熊が控える氷床…ヒトが住むには厳しい世界。

「色不異空」…ただし、最後の〇は中のことではなくで、円周上の辺りのキワ者たちがいることで初めて中が眺められるもの…だったり…

▲ページの先頭へ

JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750（代） FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.